

IOTの導入で、より良いサービスを提供していきたい

待望の超高速通信は、7月に切り替わったばかりですが、通信環境で不便を感じることは一切なくなりました。

これまで、インターネットにつながるタブレットや機器を導入して、介護サービスにいかしたいという思いはあったのですが、導入する台数を増やせば増やすほど、回線速度を圧迫することになります。そのため、速度に制限があったこれまでの、ほかの業務に影響がでることを懸念して、導入を断念することもありました。

意外に思われるかもしれませんが、介護分野でもIT機器は日常的に使われています。

利用者さんが体操をするために使う動画視聴などはもちろんですが、各職員がスマートフォンやタブレットを携帯し、利用者さんの情報を共

有しています。

また、利用者さんのベッドに心拍数などを測るセンサーを取り付けて、その人が寝ているのか起きているのかタブレットで分かるようにしています。このことで、寝ている利用者さんを起こすことなくサービスを提供することができています。

今後はこういった機器の導入を、より一層進めていきたいと考えています。

加えて、仁摩福祉会は介護施設や保育所を運営していることもあり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、ひときわ神経を使っています。

このたび、通信環境も整ったため、利用者さんと家族さんがオンラインで面会できるよう準備を進めています。

IT機器の台数を
気にせずに導入できます



社会福祉法人 仁摩福祉会
特別養護老人ホームしおさい
施設長 加藤 常德 さん

仁摩福祉会は、仁摩町を中心に介護施設や保育所など、市内6か所の施設を運営し、福祉サービスの提供をおこなっています。最新の機器を積極的に導入するなど、より良いサービスの提供を目指しています。

光ケーブルを活用した事業が広がっています

～サービス提供が始まっている仁摩サブセンターエリアでの活用事例を訪ねました～

データを扱う作業性が向上し
多くの仕事がスムーズに



株式会社 石見銀山群言堂グループ
取締役 松場 忠 さん

大森町に本社があり、国内に30店舗以上を展開する群言堂グループ。「美しい日本の暮らしを未来に伝えたい」という一貫したコンセプトで、素材にこだわった布製品をはじめとしたものづくりや、飲食・宿泊サービスの提供などを手掛けています。

群言堂グループでは、4月から超高速通信の利用を始めています。

ようやく、通信の面で都会地と変わらない仕事の仕方ができるようになったと、嬉しく思っています。

群言堂は国内に30店舗以上をかまえていますが、超高速通信が使えないのは本社だけという状況が長く続いていました。

データサーバを本社においていることもあり、各店舗からアクセスする際にも時間がかかりすぎており、業務に支障が発生していました。

また、チラシやポスターなどの印刷データや、動画、写真などの大容量のデータを相手方に送付したり、ホームページに掲載したりすることが多く、これまでは通信速度が課題となり、そうした作業に時間を取られていました。

今回の超高速通信の導入で、デー

タを扱うすべての作業性が向上し、情報発信がよりスムーズにおこなえるようになったと感じています。

この度の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各店舗や関係先との連絡調整にテレビ会議を導入していましたが、これも以前のように途切れるようなことはなくなりました。

今後は、こうしたテレビ会議を活用して、IT人材をはじめ、さまざまな人たちと一緒に仕事をしていきたいと考えています。

それから、大森のように豊かな里山がある山間地でも、超高速通信が使用できるようになれば、ITに関わる分野などでは都会地と変わらない仕事ができることとなります。

今回の基盤整備で、そうした旅行や滞在のあり方も、都会地へ情報発信できたらと考えています。

遠くにいるさまざまな「人」と一緒に仕事がしたい